

1	はじめに——政治学は何の役に立つか——	9
2	権力とは何か	13
	他人を動かす力	13
	権力のメディアは存在しない	15
	手段としての暴力	17
	自由な人間の営みとしての政治	20
3	共存のための技術 その一	26
	政治Ⅱ権力プラス「共通の利益」	26
	「共通の利益」は客観的に存在するわけではない	27
	政治は敵対関係を前提とする	28
	政治にできること、できないこと	30
4	権力の維持と拡大——支配と正統性——	33
	秩序の維持の条件	33
	正統性	35
	幹部の必要性	36
	「正義」への要求	37

正義と政治とはイコールではない	38
-----------------	----

5 意志決定のシステム——代表制の諸類型——	42
------------------------	----

後継者指定の原理	42
選挙のやりかた	44
直接民主制と議会制	45
直接民主制の条件	47
議会制と評議会制	50
ソビエト制と政党	54

6 政党はなぜ必要か	57
------------	----

投票のパラドックス	58
不確実性とリーダーシップ	60
「活動的な市民」と「受動的な市民」	63
利害関係者の自発的結社	65

7 政党を組織する	68
-----------	----

集票のための組織	68
名望家政党から大衆政党へ	69

8

権力への道

.....

87

職業としての政治 75

自由人の営みとしての政治 77

政治から収入を得る 78

党 費 79

パトロネージ（官職任命権） 81

政治献金 82

腐敗と政党 83

選挙にのりだす——新規参入は可能か—— 87

政党システム形成の条件 88

ワイマール・ドイツの政党システム 90

ナチスの興隆を可能にしたもの 91

政党制再編の条件 93

戦線の形成 94

政党と利益団体 95

ワイマール共和制における妥協とその解体 96

9	革命か内乱か	102
---	--------	-----

合法的権力掌握の条件	102
官僚制	103
軍隊	104
教会	106
君主制	108
非常時の権力の必要性	110
「天に訴える」	111
力の正義 勝者の正義	113

10	「く」という磁場	118
----	----------	-----

国民国家の基盤としてのエスニックな共同体	118
アイデンティティと文化	120
言語とナショナリズム	121
生きるための「想像の共同体」	124
主権的共同体としての国民国家	125
多民族国家における統合の問題	126
共存のための技術	127
内政と外交	128

ナショナリズムと政治 130

11 共存のための技術 その二 133

権力の限界 133

よく生きるための政治 133

生存のための政治 135

悪魔との共存？ 138

共存のためのあらかじめの基準はない 139

プロセスとしての公共性 140

歴史と政治 141

12 なぜ政治学は役に立たないか——政治と政治学への道標—— 143

政治家にとって政治学はあまり役に立たない 143

政治という現象の認識の学としての政治学 144

文献についての案内 147

あとがき 152